

Ⅲ. 義肢装具学科の基本姿勢

【学科概要】

近年の保健医療は、多くの医療スタッフの協働によるチーム医療が基本となっています。また、整形外科やリハビリテーションなど義肢装具を必要とする分野にも、バイオメカニクスやメカトロニクスなどの工学技術が盛んに導入されてきています。

義肢装具学科は、医用生体工学にさらに福祉工学を含めた新しい学問領域で、工学の理論や技術を医療・福祉の分野に応用するために開設しました。本学科では、義肢装具士の養成課程に必要な科目群に、このような医療工学と福祉工学それぞれの専門領域を加えて、医療と福祉にかかわる様々な課題に取り組める技術者、研究者の育成を目指します。

【教育目的】

義肢装具学科では、基礎医学、専門臨床医学および義肢装具学、そして本学の特徴である工学知識、技術資産を基盤として、医工学連携教育プログラムを提供します。また、本学の教育理念である「ヒューマニティとテクノロジーの融合」を基本理念とし、広く大きな意味での医療人・医療技術者教育を展開します。さらに4年制大学の特色を生かし、大学院でのスキルアップを想定した教育カリキュラムを展開し、医療技術者教育の高度化・専門化に対応するとともにリカレント教育の拠点として我が国の医療技術の向上に貢献します。

【教育指針】

学生各自の目標を達成できるよう、各々のスキルに合わせた教育プログラムを用意するとともに、自らの意思で学ぶ力、様々な問題解決能力を醸成し、義肢装具学だけでなく医療工学ならびに福祉工学の中に得意分野を見出せるよう支援することを最も重視しながら教育にあたります。

【教育・学習目標】

- 1年次： 前期から基本教育科目に加えて、義肢装具学の専門基礎教育科目、専門教育科目を導入します。前期は少人数に別れて行うプロジェクトスキルなどの科目を通じて、卒業までの教育概要を理解した上で、各授業の目的や重要性を認識してもらいます。また、1年次より義肢装具学科の専門科目を学ぶことで、義肢装具学に対する意識を高め、次年度の臨床実習に備えます。
- 2年次： 義肢装具学専門教育科目が本格的に開講されます。特に臨床実習では義肢製作所における実践的な学びを通して義肢装具士国家資格取得に向けたモチベーション向上を図ります。また、学内実習では、座学の授業と連携して義肢装具学の基礎を固めるとともに、モデルとして実際の身体障害者の方々に来ていただき、採寸から製作、適合までをトータルで学び、実践的な技術の基礎を身につける教育を実施します。
- 3年次： 後期からの臨床実習に備えた実践的な技術の取得知識の整理、専門科目の蓄積などを経て、主として義肢製作所で行われる実習に向かいます。また、後期には卒業研究の配属先を決定します。これは、臨床実習の事前指導を小グループで徹底させるとともに、高度技術者として身につけるべきそれぞれのスキルの選択を準備してもらうためです。
- 4年次： 義肢装具学に関する実践技術の総仕上げと知識の整理を行います。また、高度専門科目に取り組むことでそれぞれの知識技術力向上に努めます。通年にわたる卒業研究では、総合的な問題解決能力の醸成を目指します。さらに、義肢装具士国家試験受験に向けた4年間の知識と技能の整理、統合を行います。後期の特定科目で総合的な評価を実施することで、学生各々のスキルを高めます。

【ディプロマ・ポリシー】

義肢装具学科は、本学の教育理念である「ヒューマニティとテクノロジーの融合」を中心に据え、「保健衛生学分野と工学分野に関する専門的な教育研究活動を通じて、地域社会に貢献する医療関連人材の育成」を目指します。併せて、地域における高等教育機関としての使命を果たす学部の教育課程が定める授業科目を履修し、別に定められた卒業要件を満たした学生に「学士」の学位を授与します。これによって、卒業生には、以下の能力・知識・態度が身についていることを保証します。

1. 知識・理解

(A) 義肢装具学の基礎となる知識を修得し、保健・福祉・医療における義肢装具に関わる知識を理解する能力。併せて義肢装具学専門科目を通して社会における諸問題解決のための必要な知識・基本的ルール・スキル。

(B) 義肢装具士としての基本的かつ広範な世界に通用するリベラルアーツ。

2. 汎用的技能

(C) 日本語および基本的な英語における基盤となる技能（読む、書く、聞く、話す）が相互に作用し、日常場面、職場、研究の場において必要なコミュニケーション能力。

(D) 情報処理やコンピュータの利用に関してこれを適切かつ効果的に活用し情報の収集や収集した情報の整理を効率的に行い、自分の考えや成果物を正確に伝える能力。さらに義肢装具士として必要な数理基礎と診療・治療への応用の知識を修得し、思考・推論・創造する能力と自己学習力（意欲）。

3. 態度・志向性

(E) 保健医療における診断・診療・医療の安全管理などの諸問題に対して、義肢装具学の目的と知識・技能を駆使して、他の医療技術者とチームを組み解決策を協働しながら創出し成果を得る能力。

(F) 地域、国土、自然そして生活や文化などにも精通したグローバルな倫理観を持って判断・行動できる能力。

(G) 義肢装具に必要な知識から知恵へと転換できるように、受身教育から自らが学ぶ能動教育を通して自らが生涯考え行動する能力。

4. 統合的な学習経験と創造的思考力

(H) 将来義肢装具士として必要な専門分野を統合・発展させ、より安全で高度な医療を提供するための分析能力、統合化能力、協働能力および表現力。

【カリキュラム・ポリシー】

本学では、ディプロマポリシーの各項目を達成するために必要な授業科目の流れや、各ポリシーと授業の整合性を体系的に理解してもらうためのカリキュラムフローを作成しています。また、各授業科目の達成目標とディプロマポリシー各項目の関連性についてはカリキュラムマップにまとめられております。学生諸君はこれらのツールを利用して学習を進めることにより、卒業＝ディプロマポリシー達成までの過程における自らの立ち位置を確認することができます。また、教員団はその組織的関与により、常にカリキュラムの点検評価、および改善を行います。

【アドミッション・ポリシー】

義肢装具学科では、「医療専門職である義肢装具士として必要な知識および技術と態度を体得させ、卒業直後から指導助言のもとに独力で義肢装具士として日常医療に対応できる能力を付与するとともに、義肢装具学研究に関する思考力と創造性を有し、義肢装具学の進歩に即応しつつ、将来的に高度な知識や技術を有した義肢装具士となる基礎を培う」ことを目的として、義肢装具士を育成し、地域医療の向上に貢献いたします。

－求める人材像－

- ・ 義肢装具学に興味を持ち、義肢装具士が携わる医療を通じて社会に貢献しようという意欲を持つ人
- ・ 義肢装具士としての技能の向上の重要性を認識し、自らの専門職としての能力を高め続けることができる人
- ・ 高等学校等において、能動的に幅広く学び、国語、外国語、数学、理科、地理歴史、公民で学習したことを身につけている人